

新古今和歌集の古筆切

場所：鶴見大学図書館1階エントランス

日時：2023年10月25日（水）～11月25日（土）

*開館時間等は図書館ホームページにてご確認ください。

『新古今和歌集』は後鳥羽院（1180～1239）の命により藤原定家（1162～1241）らが撰んだ8番目の勅撰和歌集です。1205年に形式的な完成が祝われた後、1210年ころまで歌の差し替えなどが続けられました。『万葉集』や『古今集』などとともに和歌史・文学史に重要な位置を占めています。

古筆切は古写本の一部が観賞用に切断されたものです。書としての魅力はもちろん、文学研究の面からも大いに注目されます。江戸時代には古筆鑑定家による書写者の推定も盛んに行われました。もっとも、そのほとんどは信頼しがたいものですが、書写年代を考える際の参考になるほか、ツレ（同じ本から切り出された古筆切）の探索にも役立ちます。

本学図書館には和歌や物語を中心とする古筆切のコレクションがあります。今回は『新古今集』の新収資料を中心に展示しました。どうぞご高覧ください。

1、桂切

1941年に分割され、古筆了信により後京極良経（1169～1206）筆と極められたが、実際には鎌倉中期写と見られる（『古筆学大成10』参照）。このとき切断されたのは巻16であった。一方、宮内庁書陵部には巻18（函架番号503・230）、本学図書館には巻19（登録番号1370854）が切断されていない状態で所蔵されている。いずれも現在は卷子装であるが、もともとは綴葉装であったと見られる。料紙は斐紙。和歌を2行（上句末で改行）、詞書を約2字下げで書写し、朱で異文を傍記する。特異な本文が散見するため、書写年代の古さとともに注意される。

①登録番号、1437511。台紙貼1葉。9行。縦24.4cm×横15.3cm。字高、約21.4cm。巻16の1471番歌下句～1473番歌下句、存。古筆了信による極札（縦14.2cm×横2.1cm）、表「後京極殿良経公 わか身を／さても（琴／山）」、裏「名葉桂切〔朱割印〕（新古今集第十六雑之部哥 一表／西行々々〔＝法師〕之哥／世の中を之下句より）辛巳四（了信）」、『古筆学大成10』図版98に相当。

〔翻刻〕わか身をさてもいつちかもせん／東山に花みにまかり侍とてこれかれさそ／ひけるをさしあふ事ありてとまり／て申つかはしける 安法々師／みはとめつ心はおくるやまさくら／かせのたよりにおもひをこせよ／題不知 源俊頼朝臣／さくらあさのおふのうらなみたちかへり／みれともあかすやまなしの花

②登録番号、1434857。台紙貼1葉。9行。縦24.5cm×横15.2cm。字高、約20.5cm。巻16の1474番詞書～1476番歌上句、存。①から直接つながる。朱の傍記が『新編国歌大観』と一致。古筆了信による極札（縦14.2cm×横2.1cm）、表「後京極殿良経公 白浪の（琴／山）」、裏「名葉桂切〔朱割印〕新古今集第十六雑之部哥 一表／辛巳四（了信）」、『古筆学大成10』図版99に相当。

〔翻刻〕たちはなのためなかのあそんみちの／国に侍ける時哥あまたつかはしける／中に 加賀衛門／白浪のこゆらんすゑのまつやまは／はなとやみゆるはるの夜の月／おほつかなかすみたつらんたけくまの／まつくの（朱）こまもる春のよの月／題不知 法印幸清／よをいとふよしのをくの（朱）やまのよふことり

2、西山切

藤原定家の日記『明月記』にしばしば名が見える、藤原清範を伝称筆者とする。〔鎌倉中期〕写。料紙は斐紙。和歌を2行書きするが、第3句の途中で改行する場合もある。詞書は約3字下げ。

③登録番号、1437512。軸装1幅。9行。縦16.7cm×横15.1cm。字高、約14.7cm。巻6の巻首題～552番詞書前半、存。神田道伴による極札（縦14.3cm×横2.2cm）、表「藤原清範朝臣 をきあかす（養／心）」、裏「切〔朱割印〕〈丁／酉〉二（神田道伴）。桐箱入。文化庁文化財審議会専門委員（書跡部門）等を務めた是澤恭三（1894～1991）による箱書、蓋の表「藤原清範朝臣新古今集断簡〈西山切／をき／あかす）」、蓋の裏「平成元〈己／巳〉六月中旬／是澤恭三題」。

〔翻刻〕新古今和詞集巻第六／冬哥／千五百番哥合にはしめの／冬の心をよめる／皇太后宮大夫俊成／をきあかす秋のわかれのそでの／つゆしもこそむすへ冬やきぬらん／天曆御時神無月と云事を／かみにをきて哥つかまつりけるに

④登録番号、0372618。軸装1幅。7行。縦16.5cm×横9.7cm。字高、約14.5cm。巻10の900番歌上句～901番歌下句、存。極札なし。「南家高倉清範正筆」と墨書した紙片（楮紙。縦8.2cm×横2.2cm）あり。〔翻刻〕さゝのはゝみやまもそよにみたる／なりわれはいもおもふわかれきぬれば／帥の任はてゝつくしより／のほり侍けるに／大納言旅人／こゝにありてつくしやいつく白雲の／たなひくやまのにしにあるらし

3、室町時代の古筆切

⑤登録番号、1434851。台紙貼1葉。9行。伝足利義尚（1465～89）筆。〔室町中期〕写。縦18.0cm×横13.8cm。料紙、斐紙。和歌1行。字高、約15.9cm。詞書、約2字下げ。巻3の巻首題～177番歌下句、存。古筆本家（了栄か）による極札（縦14.1cm×横2.0cm）、表「常德院殿義尚公 春すきて（琴／山）」、裏「春すきて 切（栄）〈辰／三〉 二十一」（「二十一」は別筆）。

〔翻刻〕新古今和歌集巻第三／夏哥／題しらす 持統天皇御哥／春すきてなつきにけらし白妙の衣ほすてふあまのかく山／素性法師／をしめともとまらぬ春も有物をいはぬにきたる夏衣哉／更衣をよみ侍ける／前大僧正慈円／ちりはてゝ花のかけなき木のもとにたつことやすき夏衣哉

⑥登録番号、1434855。マクリ1葉。12行。伝松木宗綱（1445～1525）筆。〔室町後期〕写。縦17.5cm×横13.1cm。料紙、楮紙。和歌1行。字高、約16.4cm。詞書、約2字下げ。巻16の1496番歌上句～1500番詞書前半、存。古筆了雪による極札（縦10.8cm×横1.9cm）、表「松木殿〈宗綱卿〉（重）」、裏「思ひあれは」。川勝宗久による極札（縦14.2cm×横2.1cm）、表「松木〈宗綱卿／思ひあれは〉 了雪札アリ（極）」、裏「切〈八半／拾二行〉（御免古筆所）（洛北〔「北」の字形やや不審〕）（甲寅）九（川宗）」。

〔翻刻〕思ひあれは露はたもとにとふかるとよ秋のはしめを誰にとはまし／后宮より内にあふきたてまつり給けるに／中務／袖のうらの浪ふきかへす秋のかせ雲のうへまですゝしかるらん／業平朝臣の装束つかはし侍りけるに／紀有経朝臣／秋やくる露やまかふと思ふまであるは涙のふるにそ有ける／はやうより童ともたちにて侍りける人のとしころ／へて行あひたるかほのかにて七月十日のころ月に／きほひてかへり侍けるに 紫式部／めぐりあひてみしやそれともわかぬまに雲かくれにしよはの月かけ／みこの宮と申ける時少納言藤原統理としころ

*翻刻では改行位置を／で示し、印記は（ ）、小字は〈 ）、私に付した注は〔 〕に括った。